



Walk with Children

めぐろ



せいび

175号
2021年12月

恐れることはない。わたしは、すべての民に及ぶ大きな喜びのおとずれを

あなたがたに告げる。今日、ダビデの町にあなたがたのために救い主がお生まれになった。

(ルカ 2章 10節～11節)

校長 シスター 小島 理恵

今学期も最後の月を迎えました。学校ではこの2学期、これまでできなかった遠足や社会科見学、音楽発表会や合同体育など、子ども達が楽しみにしている行事を、安全安心を確認の上、可能な方法で行って参りました。保護者の皆様にはご理解ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

12月はイエス様のご誕生を祝うクリスマス会で締めくくられます。子ども達とご家族の上に幼子イエス様の愛と祝福が豊かに注がれますよう、お祈りいたします。

どうぞ、良いクリスマスと新年をお迎えください。

コンネッショナー
Conessione

～つながり～

先月はドン・ボスコとカロツソ神父様との出会いについて紹介しました。

今月はその後、ドン・ボスコの青年時代の様子やその当時の親友についてのお話です。

先月紹介したカロツソ神父が亡くなった後、ヨハネ（ドン・ボスコ）はキエリに移り、10年間をそこで過ごします。下宿に寝泊まりし、切り詰めた生活をしながら、学業に勤しみました。ヨハネは相変わらず読書好きで、記憶力抜群の優秀な学生だったようです。

しかしカッとなりやすい性格でした。そんなヨハネが18歳の時、ある青年と出会います。それが、ルイジ・コモッロです。彼は教室で一人静かに読書をしている時に、同級生から仲間に入るように言われますが、その乱暴者に対して毅然とした態度で臨みます。平手打ちを2発受けたコモッロは、このように言います。「それで気が済んだのなら、あとはほっといてくれ。君のことはゆるすよ。」

心穏やかな性格のルイジ・コモッロと親友となったヨハネは、「片方のほほを打つ者に、もう片方のほほを向けよ」という福音の掟を守ろうとしますが、容易に身についたわけではありません。そしてその後何度も、9歳の時の夢の中で耳にしたあの言葉を繰り返すこととなります。

「げんこつはいけない。柔和と愛をもって、君はこれらの子どもたちの友だちになるのだよ」と。



神学校併設のフィリッポ・ネリ聖堂。コモッロのご遺体が安置されています。

11月は3年生と4年生が遠足に行ってきました。3年生はズーラシア、4年生は小金井公園へ行きました。

当日は天気にも恵まれて、楽しい一日となりました。子どもたちの声を紹介します。



動物にあって思ったこと

3年生

わたしたち3年生は、遠足でズーラシア動物園に行ってきました。私にとって3回目のズーラシアでしたが、友達といっしょにいろいろな動物に会うことができたのでとても楽しむことができました。

ラクダを見に行った時、へんなものを食べていたので、「チーズかな。」と言ったら、飼育員さんが「これは、塩のかたまりだよ。ラクダは、塩のかたまりを食べるんだ。」と教えてくれました。病気になってしまうのではないかと思い、とてもびっくりしました。

とても印象に残ったのは、ヤマアラシです。なぜなら、とても大きかったからです。ヤマアラシの体には黒から白へのグラデーションになっているたくさんのとげがついていました。思ったよりも大きくて、とげがかっこよかったので大好きな動物になりました。

他にもたくさんの動物をみてわくわくすることができました。すてきな思い出になりました。



遠足

4年生

江戸東京たてもの園に行きました。ぼくは6班でした。班で計画的に行動をしました。いろいろな建物を見学しました。班のめあての「自分勝手な行動をしない」ということを守り、声をかけあいながら一緒に行動することができました。

午後は小金井公園で遊びました。クラス遊びのドロケイ、ドッジボール、キックベースで思いきり体を動かしました。クラス遊びの後、自由遊びでぼくは「散歩」を選びました。公園のいろいろな所を周り、遠くまで行きました。もみじがとてもきれいでした。

ぼくはこの遠足で、班で行動することの大切さを学びました。班の全員と協力をして、だれも困らないようにお互いに気を配ることが大切だと思いました。

～慰霊の日の集い～

11月10日に「慰霊日の集い」を行いました。慰霊の日は亡くなった方々のことを思い、追悼することを通して、私たちが今こうして生きていることの奇跡に感謝する集いです。代表の児童が当日読んだ天国への手紙を紹介します。

命の尊さ

6年生

「命」はみんな平等にあり、いつか失うもの、そして限りあるものだと思います。

私は、今まで身近で限りある命を2つ失ったことがあります。大好きだった祖父と愛犬です。その大切な2つの命を失って、「死」というものは、この世で二度と会えないということだとその時改めて実感しました。だからこそ、限りある「命」を大切に生きなければならない、自分の周りの大切な人の命を大切にしなければならない、この世の全ての人の命を大切にしなければならないと感じました。この世のすべての人々は、みんなだれかの大切な人だからです。

命は、自分に与えられたものだけれど、決して自分一人だけのものではないと思います。周りの人も私の命を大切に思ってくれています。だからこそ、私も全ての「命」というものを大切にし、そして、今自分が生きていることに感謝の気持ちを持ち、限りある命を精一ぱい生きていこうと思っています。この世に命を与えられたことを幸せに感じています。